

事業名	令和6年度魚病診断結果について（病害対策研究）
予算区分	県単
事業実施期間	令和6年度（継続事業）
担当者	住友寿明・木本翔
共同研究機関等	

<目的>

水産研究課では、魚病の発生やまん延を防止するため、魚病発生の監視や養殖魚の衛生管理の指導等を行っている。

ここでは、令和6年4月から令和7年3月の間における、当課の魚病診断結果を報告する。なお、魚病診断の対象には、養殖魚以外にも、天然魚、放流用種苗とその親魚、試験研究用の魚及び観賞魚も含まれている。

<魚病診断結果>

淡水魚の魚病診断結果を表1に示した。

淡水魚の診断件数は、アマゴ8件、アユ6件、ウナギ20件の合計34件であった。診断件数は前年度に比べ2件減少した。

アマゴでは、せつそう病と細菌性鰓病が発生した。また、循環式の陸上水槽で飼育していたアマゴにメトヘモグロビン血症が発生した。

アユでは、診断件数6件のうち4件が放流前の保菌検査であり、いずれも冷水病原菌等の保菌は確認されなかった。7月には、高水温の影響で河川の天然アユがまとまってへい死した。

ウナギでは、加温飼育していない養鰻場で冷水病が発生した。また、ウイルス性血管内皮壊死症が3件確認された。

海水魚の魚病診断結果を表2に示した。

海水魚の診断件数は、カンパチ1件、クエ1件、シマアジ1件、ニジマス9件、ブリ5件、マサバ1件、マダイ2件の合計20件であった。診断件数は前年度に比べ8件増加した。

カンパチでは、ビブリオ病が1件発生した。

クエでは、1月にVNNが1件発生した。冬季におけるVNNの発生は珍しい。

シマアジでは、ビブリオ病が1件発生した。

ニジマスでは、海水井戸を利用した陸上養殖施設において、ビブリオ病が5件発生した。

ブリでは、ビブリオ病が1件発生した。また、養殖ブリの健康診断（べこ病の有無）の依頼が3件あった。

マサバでは、養殖用種苗の健康診断（アニサキスの有無）の依頼が1件あった。

マダイでは、3月に低水温障害が1件発生した。水温は7℃台まで低下していた。

表 1 淡水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計
		R6						R7						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アマゴ	細菌性鰓病	1											1	2
	せつそう病				1									1
	メトヘモグロビン血症								1					1
	不明	1			2						1			4
	小計	2	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	1	8
アユ	高水温障害				1									1
	放流前検査	3											1	4
	不明	1												1
	小計	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6
ウナギ	ウイルス性 血管内皮壊死症					2	1							3
	パラコロ病			1		1		1	1		1			5
	鱗赤病					1								1
	冷水病		2							1				3
	不明	2	1						1	1	1	2		8
	小計	2	3	1	0	4	1	1	3	1	2	2	0	20
合計		8	3	1	4	4	1	1	4	1	3	2	2	34

表 2 海水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計
		R6						R7						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カンパチ	ビブリオ病						1							1
	小計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
クエ	VNN										1			1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
シマアジ	ビブリオ病			1										1
	小計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ニジマス	ビブリオ病					3				1	1			5
	不明					1					1		2	4
	小計	0	0	0	0	4	0	0	0	1	2	0	2	9
ブリ	ビブリオ病				1									1
	健康診断		1	1	1									3
	不明				1									1
	小計	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
マサバ	健康診断	1												1
	小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
マダイ	エラムシ					1								1
	低水温障害												1	1
	小計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
合計		1	1	2	3	5	1	0	0	1	3	0	3	20